



みえ災害ボランティア支援センター
平成30年7月豪雨
被災地支援
活動報告書



ごあいさつ

この報告書を手にとっていただきありがとうございます。

2018年は日本各地で多くの災害が発生し、今も各地で復興に向けた取り組みが続いています。復旧／復興の主役である被災された方々があたり前の生活を送れるようになるため、三重からできる活動として今回の災害では「みえ発！ボラパック」（大型バスを活用したボランティア活動）を行いました。

この取り組みは

- ・主体的に（参加費負担もした上で）活動していただいたボランティアの方々
- ・活動を支える経費や物資の支援をいただいた市民や団体・企業、助成団体の方々
- ・活動の裏方を支える事務局メンバー

それぞれが被災された方々の笑顔を思い浮かべて取り組んだ結晶です。

この報告書が、事業に関わった一人ひとりの想いを少しでも伝えるものになっていればと思います。

また、「みえ発！ボラパック」事業が単にボランティアを被災地に運ぶ事業なのではなく、参加するボランティアの参加しやすさを高めると同時に、安全や健康配慮を徹底するためのチームづくりや被災地との信頼関係構築のための組織づくりなど、多くの経験・ノウハウが活かされた活動であることを読み取っていただければ幸いです。



平成 30 年 7 月豪雨被災地支援 みえ災害ボランティア支援センター長
山本康史

みえ災害ボランティア支援センターの

【基本理念】【5つの基本原則】【4つのアクションプラン】

みえ災害ボランティア支援センターでは今回の平成 30 年 7 月豪雨被災地支援を行うにあたり、多くの方と協働で取り組むため、支援センターの活動を行う上でもっとも大切に【基本理念】、【5つの基本原則】、【4つのアクションプラン】を定めました。

【基本理念】

地震や水害などで被災した方が、あたり前の生活を送れるようになるためにボランティア・NPO 団体や三重県で活躍する企業、大学・学校、行政等が協働して三重県民による多様なボランティア活動を盛りあげていきます

大切に【5つの基本原則】

みえ災害ボランティア支援センターは5つの基本原則に従って活動します。

1. 被災した場所や状況によることなく、また、年齢、性の自認、国籍等を問わず全てのひとを支援し、地域社会や文化、自然を大切にします
2. 常に被災者、被災地主体の考え方に立ち、被災者や被災地が自立した復興を果たせるような支援活動を行います
3. 三重県民や県内の企業、大学や学校、ボランティア・NPO 団体等が取り組むボランティア活動を、信条や活動方針、団体の成り立ちを問わず支援します
4. ボランティア活動が被災者・被災地にとって最大限の効果を発揮できるよう、その活動の主体となる団体・個人と共に努力し続けます
5. センターに関わる団体や個人がお互いの行動倫理を尊重し、被災者の自立を支援するという基本理念を共有して、協働で事業を実施します

平成 30 年 7 月豪雨被災地支援にむけた【4つのアクションプラン】

みえ災害ボランティア支援センターは平成 30 年 7 月豪雨被災地支援のために、4つのアクションを起こします。

1. 被災地の情報収集、キーパーソンとの関係構築のための現地滞在ボランティアスタッフを送り出します（まずは近隣の岐阜県、京都府と、被害の大きい岡山県、広島県、愛媛県を支援対象と想定し、復旧状況や他の支援団体の活動状況に合わせて、三重県と縁が深い地域、または支援が手薄な地域を対象にします）
2. 現地のニーズと、それに対応できる三重県内の支援活動・団体をマッチングします
3. 特に多くのニーズが発生する片付けボランティアを被災地にたくさん送り届けるため、ボランティアバスを運行します（9月末までに10便/400名以上のボランティア参加を目標とします）
4. 三重県から被災地を支援している団体の連携を促進する場を作ります



支援センター設置～活動内容の決定まで

みえ災害ボランティア支援センターは三重県内または近隣都府県で災害が発生し、災害ボランティア活動が必要となった際に設置されます。

平成30年7月豪雨でも、幹事団体による臨時会が開催され、その決議を受けて平成30年7月豪雨被災地支援みえ災害ボランティア支援センター（以下「支援センター」という。）が設置されました。

1. 設置の必要性検討（臨時会）

7月9日

昼／幹事団体から「臨時会開催」の提案

夜／臨時会開催



- 全国被災地で多くの支援が必要
- 県民にもボランティア活動をしたいという想いが広がることを想定
- 支援したい県民の想いを、的確に被災者のニーズにつなげるため支援センター設置決定
- センター長は、みえ防災市民会議 議長 山本康史に決定

2. 支援先の検討・情報収集

7月9日～16日

各地で災害が発生していたため、支援先をしぼるための情報収集を行いました。

候補	①岐阜県	②京都府	③岡山県	④広島県	⑤愛媛県
距離	日帰り可能	日帰り可能	北勢伊賀なら日帰り可能	1泊以上の行程必要	往復フェリーなど検討必要
状況	情報が埋もれて支援が集まりにくい可能性あり	規模は大きくなく週末中心と想定	被害集中しており多く支援が必要	被害が分散して生じており支援者も分散する可能性有	被災地域水没しており体制づくりには時間必要か？
情報連携・先遣	●県が岐阜県にリエゾン ●県社協が東海地区ブロック幹事県として情報収集	●センター長が府災害VC関係者と情報交換	●全社協やJVOAD等の情報発信から情報収集	●県が熊野町へ職員派遣 ●センター長が呉市社協職員と情報交換	●全社協やJVOAD等の情報発信から情報収集
受入体制	●県内・近隣で対応する意向が強い	●経験豊富で地元中心に府域で対応の様子	●全国から多くの団体が支援に入っている	●各被災市町で検討中 ●呉市は広く受入する意向が強い	●詳しい情報手は行わず
絞り込み	第1候補 隣接県であり支援が求められるなら最有力			第2候補 日頃からつながりがあり、連携がとりやすい	

3, 支援先の決定

7月18日ー19日

2つに絞り込んだ候補地について具体的にどの様な活動が求められているか、支援が可能か検討を重ね、支援先を決定しました。

候補	①岐阜県	④広島県
関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ● センター長が3日間現地調査 ● 県社協職員2名が応援派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ● センター長と平時からつながりのあった呉市社協職員と電話会議 ● 社協職員ブロック派遣先が呉市に決定
事業実現性調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通は問題なし ● 関市 VC へは大型バスで移動可能 ● 上之保サテライトまで+1時間必要 移動はマイクロバス程度の方がよい ● 募集は原則県内 対象を広げる予定は無さそう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 呉市は天応サテライトなら大型バスで移動可能 ● 天応サテライトから活動現場までは徒歩で移動可能 ● 旅行会社を通じて交通/宿泊調査 ● 移動は問題なし/広島市内なら宿泊の確保が可能 ● 被災地内の入浴施設(大和温泉物語)にて無料の入浴が可能(帰路のクールダウンに使用できる) ● 募集は広く全国から募っている
決定	7月19日 支援先を 広島県呉市 に決定	

4, 活動内容の決定

7月20日ー30日

現地の状況や課題を更に調査し、現地にもっともマッチした支援活動を検討しました。

課題	現地の状況	検討内容と対策
現地ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 多数の土砂除去ボランティアが必要 	<p>多くの方に参加してもらう方法 → 現地への移動・宿泊などをセットにして募集した</p>
活動の指示	<ul style="list-style-type: none"> ● 班の割り振りは地域単位になっている ● 作業指示は地元自治会長が行う 	<p>自治会長の負担を軽減したい → 送り出す段階でチームを組んで、作業指示が伝わりやすい様にした</p>
健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> ● 高温多湿で熱中症対策が必須 ● 高温なので昼食の保管に工夫が必要 ● 看護師ボランティアが作業現場を巡回している 	<p>活動中に健康管理を徹底できる仕組み → 2人一組のバディを組んでもらい相互に健康チェックを行った → 事務局に看護師資格を持つ方に参加してもらいアドバイスを受けた</p> <p>食中毒対策を考えておく必要がある → 昼食を保管できる大型保冷バッグを持参した(コープみえ様から貸与)</p>

様々なポイントを実現するには、個人個人で現地に駆けつけるよう呼び掛けるのではなく、**チームとして駆けつける**形が有効と考え、ボラパックで支援することに決定

●ボラパックのポイント

- 参加者の中から経験者や技能を持った方にコーディネーター/リーダー/安全担当を依頼
 - ・ コーディネーターは全体の進行管理やバス運転手等の調整、支援センターとの連絡を担当
 - ・ リーダーは自治会長や住民との窓口を担当して作業指示を参加者に周知
 - ・ 安全担当は健康管理やケガの対応、休憩時間の管理を行い救急箱を持参
- チーム「みえボラ」として活動することで現地の方々との信頼関係をつくとともに、安全性を高める
 - ・ 出発時に個人ではなくチーム「みえボラ」の一員として活動に関わるよう呼び掛ける
 - ・ 現地に向かう移動中のバス車内で自己紹介や班編制、バディ組みを行う
 - ・ 現地では共通のオレンジビブスを羽織って活動することで一体感を出す
 - ・ 活動終了後にチームで振り返りを行い、気づきやヒヤリハット事例を共有・次の便に引き継ぐ



《みえ発！ボラパック》の流れ

《みえ発！ボラパック》に参加すると、どのような流れでボランティア活動ができるのか、集合から解散までの流れを簡単に紹介します。

() 内は第7便以降の時間

■ 出発日

20:30 頃	コーディネーター・リーダーミーティング 活動全体の流れや、注意事項などを事務局から説明します。
21:00 頃	受付開始
22:00 頃	出発
4:00 ~ 7:00 頃	小谷SA (5:30 ~ 7:30 頃 一華寺(いっけじ)) で仮眠 ※第10便からは「一華寺」様が仮眠場所を提供して下さることになりました。

■ 活動1日目

8:30 頃	くれ災害ボランティアセンター 天応サテライトに到着
9:00 ~ 13:30 頃 (15:00 頃)	現場作業 ※日によって現場のニーズは変わり、その時の現場のニーズに合わせて活動しました。
14:00 頃 (15:30 頃)	天応サテライトに撤収
15:00 ~ 16:00 頃 (17:00 頃)	宿泊施設に到着 ※宿泊施設では、入浴し、仮眠後に夕食をとり、夕食の前後では、活動の振り返りを行います。

■ 活動2日目

7:00 頃	宿泊施設を出発
9:00 ~ 13:30 頃 (15:00 頃)	現場作業 (第7便からは 15:00 頃まで作業)
14:00 頃 (15:30 頃)	天応サテライトに撤収
14:30 ~ 19:00 頃 (16:30 ~ 21:00 頃)	大和温泉物語にて入浴・休憩、呉市内散策 ※大和温泉物語様のご厚意により入浴料無料にいただきました。また、休憩時間に呉市散策もできました。
19:00 頃 (21:00 頃)	呉市を出発
20:30 頃 (22:30 頃)	福山SAで最後の買い物

■ 帰着日

2:00 ~ 5:00 頃 (4:00 ~ 5:00 頃)	安濃SAで時間調整 ※鉄道の始発時間や出迎えスタッフの集合を待つため。
5:30 頃	アスト津に帰着・解散



コーディネーター・リーダーミーティング



バス車内



出発前センター長挨拶



現場作業



活動のふりかえり



観光の様子

《みえ発！ボラパック》各便とその活動内容

延べ参加人数 273名

<p>第1便 (7月31日～8月3日) (参加人数) 15名 (男性:12名、女性3名) (活動内容) ・住家(建屋周辺、庭等)の泥撤去、搬出 ・土のう・災害廃棄物の集積場への搬出 ・家屋内に流入した土砂撤去</p>	
<p>第2便 (8月3日～6日) (参加人数) 32名 (男性:25名、女性:7名) (活動内容) ・住家の側溝、庭の泥撤去、搬出 ・家屋内の食器・棚の搬出、屋内からの泥出し ・空き地に隣接した建物に堆積した土砂撤去、側溝の泥出し</p>	
<p>第3便 (8月7日～10日) (参加人数) 41名 (男性:29名、女性:12名) (活動内容) ・住家の側溝、庭の泥撤去、搬出 ・家屋内(床下)の泥出し・屋外の土砂、土のうの運搬</p>	
<p>第4便 (8月17日～20日) (参加人数) 39名 (男性:26名、女性:13名) (活動内容) ・住家敷地内(庭・車庫など)、玄関口の土砂撤去、搬出 ・水路の泥出し</p>	
<p>第5便 (8月21日～23日) ※台風のため1日短縮 (参加人数) 27名 (男性:16名、女性:11名) (活動内容) ・住家敷地内(庭)の土砂撤去 ・室内の廃棄される家具等の解体及び分別処理 ・床(フローリング)の泥出し</p>	
<p>第6便 (8月24日～27日) (参加人数) 40名 (男性:27名、女性:13名) (活動内容) ・物置内の家財分別、運び出し及び泥撤去・庭の樹木伐採及び運び出し ・敷地内及び屋内(床下)の土砂撤去</p>	
<p>第7便 (8月28日～31日) (参加人数) 38名 (男性:26名、女性:12名) (活動内容) ・敷地内の土砂撤去、搬出・蔵の床下土砂搬出 ・宅内の床下掃除、引き戸掃除</p>	
<p>第8便、第9便 雨天のため中止</p>	
<p>第10便 (9月11日～14日) (参加人数) 20名 (男性:15名、女性:5名) (活動内容) ・敷地内・庭の土砂撤去・搬出、庭木の切断 ・家具の搬出、洗浄・乾燥 ・玄関清掃</p>	
<p>第11便 雨天のため中止</p>	
<p>第12便 (10月6日～9日) (参加人数) 21名 (男性:11名、女性:10名) (活動内容) ・庭の土砂出し(ニーズ完了) ・畳入れ</p>	



《みえ発！ボラパック》参加者の声

第1便（7月31日～8月3日）

参加することでチームワークの大切さだったり、一人一人の役割をそれぞれが考慮し一生懸命作業することができ大変良い経験になりました。ボランティア活動を常に自分の生活の一部とされている方のお話も聞け、また世代間を超え楽しく語れたし、とても良かったです。私なんてお役にたてるだろうか？と思われる方がいれば少しの勇気と少しの思いやりがあれば是非参加されたほうが良いです。ひとつの事をきっかけにさらに自分向上につながります。

第2便（8月3日～8月6日）

ボランティア活動をさせていただいたのは初めてでした。今までも行こうと思いつつ、一步を踏み出せずにいましたが、今回のボラパックで参加できたことは自分にとって大変貴重な経験となりました。自分一人ではできないことでも同じ班の人と声掛けし、協力し合うことで少しずつでも復興の一步になるのかな、と感じました。リーダーさんがボランティアはリレーだと言ってみえて、このバトンをひきつぎ、そして自分もまた受け取れるようにしていきたいと感じました。

第3便（8月7日～8月10日）

機械で作業できない狭い場所など、人の手が必ず必要だと感じた。

第4便（8月17日～8月20日）

本当は、私自身がボランティアに行くよりも、まとまったお金を広島県に寄付したほうがよいのではと迷っていましたが、けれども、実際に人の手でなければできないことが沢山あると分かりました。作業量はともかく、周到に準備して下さったボラパックのスタッフの皆さんのおかげで、私でもそれなりに成果を出すことができたのではないかと感じる事ができました。本当にありがとうございました。

第5便（8月21日～8月23日）※台風のため1日短縮

ずっとテレビや新聞で災害のこと、ボランティアのことを見ている、自分でも何かできないかと思っていたので、今回参加できて良かったです。また、そういう思いの人と出会えて一緒に活動ができたことが自分の力の源になりました。そしてボランティア経験のある方がリーダーやコーディネーターして下さるシステムも動きやすくてありがたかったです。

第6便（8月24日～8月27日）

いい経験をさせて頂き、本当に参加して良かったです。家屋の様子を目の前にすると、この状態でもうすぐ2ヶ月近く経つことに辛く感じました。災害は防げませんが一刻も早く復旧することはできるので、これからも自分にできることをしていきたいです。

第7便（8月28日～8月31日）

動機なんて大してなくてもいいんだと改めて思いました。大切なのは動機じゃなくて参加すること、継続していくことだと思います。

第8便 雨天のため中止

第9便 雨天のため中止

第10便（9月11日～9月14日）

“百聞は一見に如かず” 自分の目で見て、体験すること、これに勝るものはないです。被災された方々の声、表情、言葉、これら全てが今の現状をリアルに伝えてくれます。とてもいい出会いでした。そして、元気を共有できたことに感謝です。

第11便 雨天のため中止

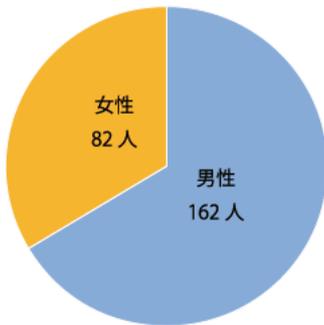
第12便（10月6日～10月9日）

今回悲しい思いをしている呉市の方の少しでもお役に立ちたいと思い、参加させていただいたのですが、反対に呉市の方にもたくさん感謝していただき、他のボランティアの方にも優しくしていただき、私の方が幸せになってしまったので、また他のボランティアや日常生活で他の人に恩返しをできるように頑張ります。

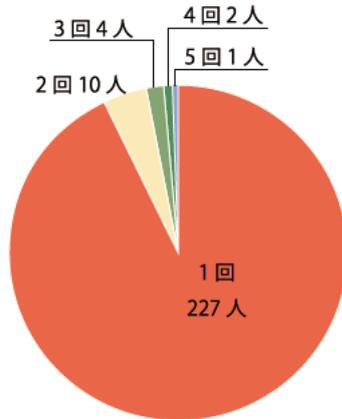


《みえ発！ボラパック》参加者の傾向

■ 実参加人数



■ ボラパック参加回数



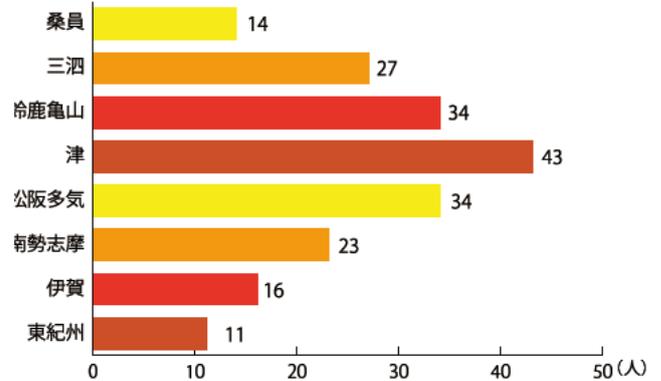
■ 参加者の居住地（県内外）



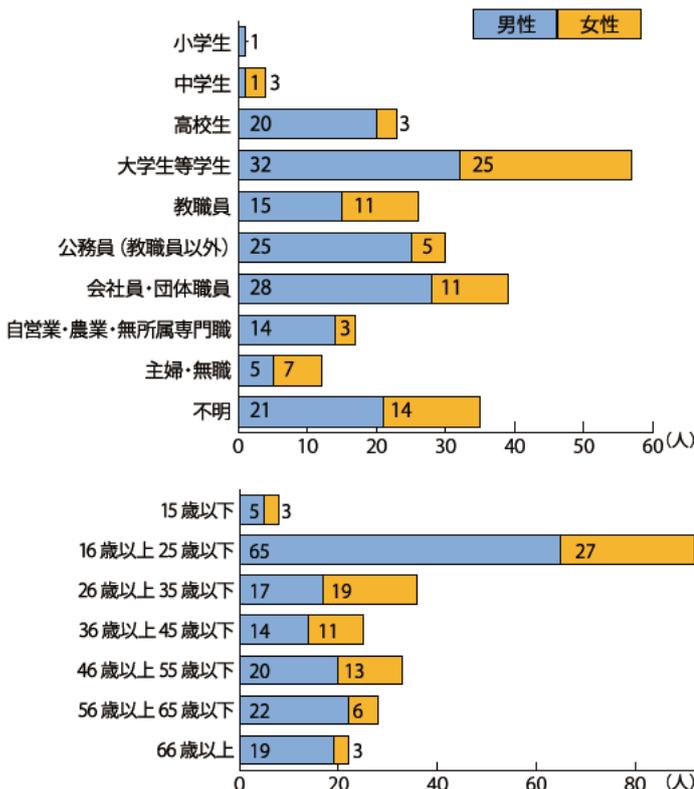
【参加者の傾向と分析】

- 参加者のうち、男性が全体の3分の2を占めているが、大学生等20歳前後の学生では女性の割合がやや高くなっている。
- 幅広い年齢の方々が参加されているが、酷暑で遠方だったこと、夏休み期間前後だったこと、さらにアンダー25歳の参加料減額の効果もあってか、シニア層より25歳以下の方の参加が目立っている。
- ボラパック参加回数について複数回を回答した方は全体の約7%であり、延べ回数でいうと約90%が1回だけの参加となる。

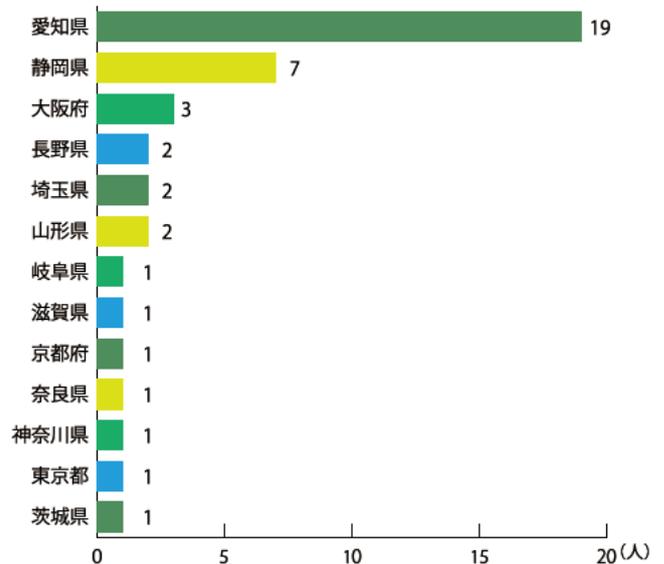
■ 参加者の居住地（県内地域別人数）



■ 参加者の属性（職業別・男女別）（年齢・男女別）



■ 三重県外からの参加者（都道府県別人数）



- 県内からの参加者について、出発地から近い鈴鹿亀山、津、公阪多気地域からの参加が多いが、人口の少ない東紀州からの参加者も一定の割合を占めている。
- 県外からは、愛知県からの参加者が最多であり、静岡県からがこれに続くものの、東海地方以外からもご参加いただいている。



《みえ発！ボラパック》呉市からの声

呉市のみなさまからたくさんの声を頂きましたので、一部ですが紹介いたします。ありがとうございました。

「呉市天応地区」のみなさまから

私はひとり暮らしの高齢者です。一人では絶対にできない家の中の土砂出し。とても助かりました。でもそれ以上に嬉しかったことは、ボランティアさんとおしゃべりです。子どもや孫とおしゃべりをしているような、温かい気持ちになれたひとときでした。ありがとうございました。(地区住民)

大屋大川の土砂・洪水氾濫で敷地もろとも1階が2メートルほど土砂に埋め尽くされた。家族や知人とともに撤去作業に当たったが、なかなか進まなかった。猛暑の中、オレンジのビブスを着た三重のボランティアさんに数日来ていただいた。一緒に協力して土砂撤去に当たっていただいた。お陰様で大切な家を取り壊すことなく、生活ができる。本当に感謝しかない。ありがとうございました。(地区住民)

後期高齢者になり、将来のことを考え、少しずつ断捨離をしようと思っていた矢先の災害でした。

良いきっかけだと、土砂に埋まったものは、諦めてすべて捨ててしまおうと思っていました。

でも、アルバムや家族の思い出の品などが土の中から見えたとき、ボランティアさんがスコップではなく、手で丁寧に取り出してくださる心遣いがとても嬉しかったです。(地区住民)

オレンジのビブスに『みんなのえがおがみたいから』の文字。

私たちは、三重県の皆さまに笑顔にしてくださいましたよ。自宅1階がすべて土砂に埋まり、途方に暮れていたとき、皆さまに出会いました。遠くから来てくださったにも関わらず、まったく疲れた様子を見せない。私のチカラに一番なってくれました。

三重県は、素晴らしい人たちの住むまちなのですね。今度、行ってみたいと思います。(地区住民)

三重県の皆さまをいつも待ち焦がれていました。

土砂出し作業で汗をかく中、「お体は大丈夫ですか」と、オレンジのビブスを着ている皆さんが声をかけてくださる。他人の家をここまで丁寧に、そして綺麗に片付けてくださる皆さまを見て、新たな家族が増えたように嬉しく思っていました。帰路につかれる皆さまに「ずっとここに居てくれたら」と寂しさを感じるほどでした。「ありがとう」と、心からお伝えしたいです。(自治会班長)

暑中、呉のために遠くから来ていただき、本当にありがとうございました。

多くのボランティアさんが一度だけしかお会いできない中、みえボラの皆さんの「明日も来るよ」ということばは、住民(特に高齢者)にとって安心感につながっていました。(民生委員)

ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

三重県から遠路はるばるお越しいただき、感謝しかありません。これからも見守っていただければとても嬉しく思います。本当にありがとうございました。(自治会長)

活動場所の家主への心遣いはもちろんのこと、活動場所に向かう途中に出会う住民や職員への挨拶、ボランティアがケガをすると被災地(住民)に迷惑を掛けるからと徹底した安全対策など、みえボラのルールはすばらしかったです。(天応地区民生委員)

徹底された組織集団行動に感服しました。

このような被災地では、イレギュラーなことが起こるのが当然です。しかし、三重県さんには、起きないようにする仕組みや事前のレクチャーがあったのではないかと。また、ボランティアバスの運行は、市民の皆さまへ一般募集されたとお聞きしましたが、参加されたお一人お一人にしっかりしたボランティアスピリットが感じられ、そのレベルの高さに驚きました。(一緒に活動した天応ボランティア)

呉市でご支援いただいた「大和温泉物語」のみなさまから

ご尽力頂きありがとうございました。今回のボランティア活動を機会あるごとに話しています。あまり遠くから来られているイメージが無い方も多いです。ただもし逆だったらどうだろうと自問自答します。それだけかけがえのない行動をとられたのだと私たちは知っています。実際私共も現場で活躍されている姿は見ておりませんが皆さんのお疲れの表情とお風呂上りの笑顔、そしてお見送り時ありがたくて涙が出そうになった時もありました。

この度の皆様の度重なるご来呉に呉市民はどれほど勇気ももらったことでしょうか。なにより一日身体を動かし疲れて戻って来られているのに、皆様様に当館に笑顔でお越しいただき、お風呂あがり「天国でした」と満面の笑みでの一言を何度いただいたことか…辛い時、苦しい時ほど笑顔が力になることを今回改めて教えていただきました。ありがとうございました！



《みえ発！ボラパック》ふりかえり会

支援センターでは、「《みえ発！ボラパック》広島行き」として、7月31日夜に第1便が出発、10月9日朝に第12便が帰着するまでの2ヶ月強、広島県呉市に向けて全9便のボランティアバスを運行しました。この支援活動を振り返り、今後に活かしていくため、「《みえ発！ボラパック》広島行きふりかえり会」を開催しました。

呉市社会福祉協議会から近藤吉輝さんをゲストにお招きし、前半は近藤さんから発災当時から現在に至るまでの現地の状況を聞かせていただき、後半は参加者が振り返りのグループワークを行いました。

日時	平成30年12月15日(土) 13:30～16:00
場所	三重県勤労者福祉会館(6階研修室)
参加者	ボラパック参加者 事務局ボランティア 西日本豪雨被災地支援連絡会参加者 みえ災害ボランティア支援センター幹事団体担当者 等
38名	



ゲスト
呉市社会福祉協議会
地域福祉課主査
近藤吉輝さん

【近藤さんのお話】

現地の被災状況とくれ災害ボランティアセンターの活動、現在もまだ続く復興への取り組みについて、現場の声をしっかりと聞かせていただきました。

- 過去の被災経験の学びを活かし、今回の災害においては先を見通したプロジェクトを早々に立ち上げた
- 「陸の孤島」となった呉市の復旧・復興に向けたキーワードは「地域力」と「受援力」
- 1本部+7サテライトで活動を展開、広島県内の被災自治体で最多のボランティアを受け入れた



【グループワーク】

- ①今年の災害でどんな活動をしたか？
- ②その中で印象に残ったこと・気がついたこと
- ③次の災害に備えてこれから自分がどんな準備をしたいと思ったか？

の3点について、各グループごとに参加者の皆さんがディスカッション。様々な意見や、次の活動に繋がっていくようなキーワードがたくさん出されました。



- 現場を見たという経験は大切、自分の周りから伝えていきたい
- 未経験の人への伝え方は課題
- 最初の一步を踏み出すのは抵抗感がある
- ボラパックは一步を踏み出しやすい仕組み
- 「つながり」が「信頼」へと続いていく





《みえ発！ボラパック》事務局の取り組み

支援センターは、設置から閉鎖までの約6ヶ月間、事務局ボランティアとして登録いただいた方や、幹事団体の担当者同士が協力しあい、ほぼ専任のスタッフを配置することなく事務局を運営してきました。

ここでは、ボラパック事業における事務局の活動内容を“ざっくり”ご紹介します！

【バス出発前日まで】

■参加者募集・名簿管理

①事業実施告知	HP、Facebook・Twitter 発信、報道への資料提供などで広くお知らせしました
②申込受付と問い合わせ対応	便ごとに受付し残席数を管理するとともに、皆さんから寄せられる質問に対応しました
③受付内容確認と参加確定連絡	申し込んでいただいた方のメールアドレスやボランティア保険加入状況、駐車場利用希望などを確認し、参加確定連絡をしました
④コーディネーター・リーダーの 人選と直前連絡	コーディネーターなど役目を担っていただく方を決定、事前ミーティング連絡をしましたあわせて、そのほか参加される方全員に集合時間や持ち物注意などの直前連絡をしました

■ロジ（バスの手配・物の準備など）

①旅行会社との折衝（行程管理）	バスや宿泊場所手配、参加人数、昼食準備、往復行程など、旅行会社と常に連絡を取り合いました
②飲料水の調整	水を提供いただいた「コープみえ」と、積み込む水の量を調整しました
③バス積み込み荷物の準備	ブルーシート、ゴミ袋、マスクや台車、救急セットと、参加人数分のピブスを準備しました（足りなくなっているものはその都度補充）
④参加者配付資料の準備	参加者の方に渡す資料を準備しました（コーディネーター・リーダー用と一般参加者用）

■事業実施の最終判断

①現地ニーズの確認	呉市災害ボランティアセンターに確認しました
②リスク判断	天候等の状況を見ながら実施の可否を判断しました (ボラパック広島行きは、台風などの影響で3回中止になりました…)

【バス出発～帰着まで】

■出発当日

①事前ミーティング	コーディネーター・リーダーを引き受けていただいた方と事前ミーティングを行いました
②参加者受付（駐車場管理）	駐車場を開錠して車で来られる方を受付、あわせて参加者全員の受付と参加費徴収、ボランティア保険未加入の方の加入手続きをしました
③荷物積み込みと参加者乗車	バストラックに荷物を積み込み、参加者に乗車していただきました
④出発前あいさつ	参加者がバスに乗り込んだら、センターからひとことあいさつしました (センター長または副センター長)
⑤出発見送り	バスが見えなくなるまで手を振ってお見送り、その後受付を撤収して解散しました

■ボラパック活動日程中

コーディネーターとの連絡	コーディネーターから随時連絡や活動報告をいただき、ボラパック活動が順調に進んでいるかどうか、確認しました（ケガ人や体調不良の方発生、交通事情の急変など、突発事態に備えました）
--------------	---

■帰着当日+その後

①出迎え	バス到着時刻30分前に集合・待機、バスが戻るのを手を振ってお出迎えしました
②活動証明書をお渡し	バスに乗り込み、「お疲れさまでした」の声かけとともに活動証明書をお渡ししました
③荷下ろしと送迎	皆さんの荷物をバスから降ろし、解散する皆さんを見送るとともに駐車場へ送迎しました
④アンケート等集約	コーディネーターから活動報告・アンケートを受け取りました（内容を後日記録）
⑤あと片付け	積み込んだクーラーボックスやブルーシート、救急セットなどを事務局内の保管場所に片付け、ピブスを回収して洗濯、次に備えました



西日本豪雨被災地支援連絡会

支援センターでは、三重から西日本豪雨災害に対する支援活動を行っている団体や個人の皆さんと、「今、三重からできること」をキーワードに情報共有、情報交換を行うことでよりよい支援につなげていくため、「西日本豪雨被災地支援連絡会」を開催しました。

第1回

平成30年7月24日(火) 19:00～21:00

参加者32名



第2回

平成30年10月5日(金) 19:00～21:00

参加者11名



【内容】

参加団体・個人からの活動報告

(第2回は北海道胆振東部地震に関する報告も併せて実施)

参加団体・個人どうしの情報共有・活動内容などへの質問や意見交換など

参加いただいた団体または個人の皆さんとは、メーリングリストで連絡先を共有。今後もつながりを大切に、引き続き「三重からできること」について考え続けていきたいと思ひます。

活動カレンダー

日 付	会 議	主 な 出 来 事
6月28日		後に「平成30年7月豪雨」と命名される降雨が始まる
7月6～8日		西日本各地に大雨特別警報が発表、各地で大災害発生
7月9日	臨時会	みえ災害ボランティア支援センター設置、センター長に山本 康史氏が着任
7月10日	幹事会	事務局スペース設置、業務開始
7月11日	幹事会	
7月12日	幹事会	「基本理念」「5つの基本原則」「4つのアクションプラン」を決定
7月13日	幹事会	
7月17日	幹事会	
7月18日	幹事会	
7月19日	幹事会	ボラパックでの支援先を呉市に決定（地区は以後も検討）
7月20日	幹事会	《みえ発！ボラパック》 広島行き（以下、「ボラパック」と表記）第1～7便実施 をプレスリリース
7月21日		みえ災害ボランティア支援センター活動支援金 募集開始
7月23日	幹事会	ボラパック受付開始
7月24日	幹事会	西日本豪雨被災地支援連絡会（第1回）（32名）
7月25日		事務局スタッフボランティア募集開始
7月26日	幹事会	ボラパックでの支援先を呉市天応地区に決定
7月30日	幹事会	
7月31日		ボラパック（第1便）出発（15名）
8月1日	幹事会	
8月3日		ボラパック（第1便）帰着、ボラパック（第2便）出発（32名）
8月6日		ボラパック（第2便）帰着
8月7日		ボラパック（第3便）出発（41名）
8月9日	幹事会	ボラパック第8～10便の実施を決定
8月10日		ボラパック（第3便）帰着
8月16日	幹事会	
8月17日		ボラパック（第4便）出発（39名）
8月20日	幹事会	ボラパック（第4便）帰着
8月21日		ボラパック（第5便）出発（27名）
8月23日		ボラパック（第5便）帰着（台風のため1日短縮）
8月24日		ボラパック（第6便）出発（40名）
8月27日	幹事会	ボラパック（第6便）帰着
8月28日		ボラパック（第7便）出発（38名）
8月29日		三重県「災害時NPO活動支援事業継続支援活動補助金」の交付団体募集開始（～12/28）
8月31日		ボラパック（第7便）帰着
9月3日	幹事会	ボラパック（第8便）中止
9月6日	幹事会	ボラパック第11便の実施を決定
9月7日		ボラパック（第9便）中止
9月10日	幹事会	
9月11日		ボラパック（第10便）出発（20名）
9月13日	幹事会	ボラパック第12便の実施を決定
9月14日		ボラパック（第10便）帰着
9月20日	幹事会	
9月28日		ボラパック（第11便）中止
10月5日		西日本豪雨被災地支援連絡会（第2回）（11名）
10月6日		ボラパック（第12便）出発（21名）
10月9日		ボラパック（第12便）帰着
10月17日	幹事会	
11月3日		大規模津波防災総合訓練会場で活動パネル展示（パネルは以後活用）
11月12日	幹事会	
11月19日		事務局スペース縮小
12月11日	幹事会	
12月15日		ふりかえり会 開催（38名）
1月15日	幹事会	1月末での支援センター廃止を決定
1月31日		みえ災害ボランティア支援センター 閉鎖

収支報告

平成 31 年 1 月 31 日現在

【収入の部】

(円)

予算科目	金額	備考
繰越金	25,979	
寄附金	3,591,949	活動支援金（12 月末まで）
助成金（日本財団）	3,000,000	9/26 入金
助成金（三重ボランティア基金）	500,000	9/25 入金
助成金（中央共同募金会）	500,000	11/9 入金
参加負担金	3,585,000	ボラパック参加者負担金（1～12 便）
予備費	2	預金利息
合計 (A)	11,202,930	

【支出の部】

(円)

予算科目	金額	備考
ボランティアバス運行事業費 （ボラパック）	9,200,407	バス代及び宿泊費（1～12 便） ※キャンセル料含む
ボランティアバス運行事業費 （ビブス制作）	106,970	ビブス制作費
旅費交通費	77,800	12/15 ふりかえり会講師旅費 他
消耗品費	188,753	ボラパック用救急用品、事務用品 他
印刷製本費	60,480	支援金チラシ印刷、パネル用写真
手数料	8,208	振込手数料
使用料及び賃借料	14,820	会議室等使用料
通信運搬費	62,909	切手代、モバイル通信契約料
委託料	132,804	ボラパック問合せ対応等業務委託
合計 (B)	9,853,151	

(円)

差引収支 (A-B)	1,349,779
------------	-----------

ご支援・ご協力いただいた企業・団体等

- 活動支援金について、一定額以上ご協力いただいた団体様（順不同）
株式会社三重アロー様、桑名ボランティア連絡協議会様、株式会社ぎゅーとら様、有限会社三和真珠様、日本労働組合総連合会三重県連合会様、三重県労働者福祉協議会様、生活協同組合コープみえ様、三重県生活協同組合連合会様、鳥羽ロータリークラブ様
- その他、活動支援金をお寄せいただきました企業・団体・個人の皆様方、被災地で活動するボランティアの方々のために飲料水を継続的にお寄せいただきました生活協同組合コープみえ様、スコップや土のう袋等の資機材をお寄せいただきました県内自治体様、バス発着時にホテル玄関先を使わせていただきましたホテルグリーンパーク津様など、多くの方々のお力添えで活動を実施することができました。
ご支援・ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。
- 皆様からいただいた活動支援金の残金については、今後の災害支援活動に備えた予備費とさせていただきます。

三重県知事からのメッセージ



はじめに、平成 30 年 7 月豪雨で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

このたびの豪雨において、各地で土砂災害や河川の氾濫が相次ぎ、西日本を中心に甚大な被害が発生しました。本県は、県内市町と協力して、広島県熊野町に職員を派遣し、災害対策本部や避難所の運営等の支援など、被災地からの要望に応じた支援を行っているところです。

しかしながら、今回のような災害に対する支援は、行政だけでは限界があります。ボランティアの皆さん一人ひとりの力が、復興のための支援には欠かせません。

県では三重県地域防災計画において、ボランティアの円滑な活動に必要な情報の送受等を行うため、人材の育成や各市町等の災害ボランティアセンター等の活動支援と連携体制の構築の場として、みえ災害ボランティア支援センターを位置づけています。

みえ災害ボランティア支援センターでは、ボランティアが積極的に活動できるような環境づくりに官民協働で取り組んでおり、このたびの豪雨においても、広島県呉市へボランティアバスを出し、多くのボランティアの方が現地へ赴き、支援をしていただきました。このような支援に迅速に取り組めたことは、これまでセンターが継続的な協働の場をつくるとともに、人材育成を続けてきた成果の賜物です。

被災地から遠く離れた地でできることは限られています。しかしながら私たちは、災害の記憶を風化させず、被災された方々の気持ちや暮らしに思いを寄せ続けることは可能です。

災害の教訓やボランティア活動の経験を今後に生かすことは、私たちの使命でもあります。今年には伊勢湾台風 60 周年、昭和東南海地震 75 周年の節目にあたります。災害の教訓を次世代へ継承するとともに、三重県で災害が起こったときに備え、県民の皆さんとともに防災・減災対策に取り組んでいきます。

みえ災害ボランティア支援センターは、「被災された方々を応援したい」という多くの団体、NPO やボランティアの皆さんに支えられています。今回のボラパックに参加いただいた方々、また支援金や物資の寄付をしてくださった方々に感謝申し上げますとともに、今後の支援活動につきましても引き続きご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月 31 日
三重県知事 鈴木英敬

幹事団体紹介

特定非営利活動法人みえ防災市民会議

防災ボランティアコーディネーター養成や地域での防災啓発、災害に備えた県内外団体とのネットワークづくり等に取り組むNPO法人です。みえ災害ボランティア支援センターでは幹事団体として事業の企画・実施や被災地受入団体との連絡調整、情報収集・発信の為にホームページ、SNSアカウントの運用などを担っています。

特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター

特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンターは、「みえ県民交流センター」(アスト津3階)の指定管理者として事業および施設の管理等を行っていることから、幹事団体の一員となっています。今回はアスト在席団体として、土日、夜間の電話や来客対応、ボラバス運行のための様々な準備を他の団体と連携して行いました。

三重県ボランティア連絡協議会

三重県ボランティア連絡協議会は県内の市町ボランティア団体が、相互に連絡調整を行い、ボランティア活動の発展と社会福祉の増進を図ることを目的として設立された団体です。遠隔地の市町ボランティア連絡協議会との連携を深めるためにも、各地で開催する行事等に力を入れ、顔の見える関係を続けることに努めています。

社会福祉法人三重県社会福祉協議会

今回のような大規模災害時、本会には被災地社協への派遣(全社協の要請による)とボランティア対応(保険手続き等)の両面が求められます。今回は、みえ発!ボラパックの派遣先とブロック派遣先が同じ呉市になったこともあり、リアルタイムに近い感覚で支援側と受援側の情報のやりとりができました。

三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

三重県防災企画・地域支援課は、地域防災力の向上に取り組んでいます。今回のボラパックでは、記録係を担当しました。記録係として第1便から第12便の記録を残し、報告書の作成に携わりました。また、第6便、第7便、第10便の担当として、ボラパックに参加いただいた皆さまのサポートを行いました。

三重県子ども・福祉部 地域福祉課

三重県地域福祉課では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の支え合い体制づくり等を進めています。今回のボラパックでは、主に安全管理担当として、各班が常備する救急用品の管理等を行いました。また、第6、7、10便の担当として、参加者のお見送り、お出迎えをいたしました。

三重県環境生活部 ダイバーシティ社会推進課

三重県ダイバーシティ社会推進課は、平常時は支援センターの事務局としての役割を担っています。このたびの西日本豪雨災害に関する支援では、主に支援センターの運営にかかる会計事務を担当したほか、電話や窓口での対応、ボラバス運行のための様々な準備等を他の幹事団体と共に行いました。

<日本赤十字社三重県支部>

<(公社)日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会>
も支援センター構成団体の一員です。

活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：2019年2月28日

この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒514-0009

三重県津市羽所町700アスト津3階

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課NPO班

TEL：059-222-5981

FAX：059-222-5984

E-MAIL：seiknpo@pref.mie.lg.jp

URL：http://mvsc.jp/